



第
18
回

海草支部

和歌山市支部

那賀支部

伊都支部

有田支部

紀州さんぽ散珠つなぎ

新宮支部

串本支部

田辺支部

日高支部

神倉神社と新宮城跡（丹鶴城）



神倉神社石段

神倉神社

新宮市の山側にある神倉神社は熊野権現である那智、速玉、本宮の神が最初に降り立ったところの地方では伝えられています。

頂上には、ご神体のごとびき岩（方言でひきがえる）が太平洋を望むように鎮座しています。ごとびき岩のしめ縄は年に一度お燈祭りの前に締め替えられ長さ30mあるそうです。祭りの前には必ず雨も降ります。

霊気にみちた場所として古来より信仰の場であり、仏教が伝来してからは神と仏が一緒になった神仏の霊場になっていきました。神々が最初に降りた元宮から新しい宮、速玉大社を作った事からこの地は新宮とされました。

538段もの急な石段はこの地方の熊野別当ゆかりの源頼朝公ご寄進で、その頃から変わらない石段が新宮の人々によって大切にまもられています。

実際に神倉神社に入りごとびき岩のある頂上まで上られるとこの地が神々に守られている聖地だと、感じて頂けるのではないのでしょうか。

神倉神社で年に1度、2月6日に行われるお燈まつりは1400年もの歴史のある

お祭りです。

約2600年前神武天皇東征の際、神倉の祭神高倉下命（たかくらじのみこと）が剣を捧げ馳せ参じたという故事にならじ始まったとされ、県指定無形文化財になっています。

二千人前後の上り子が、白装束を身につけ松明に御神火を受け一年の祈願をします。

この地方の男の子は大体3歳頃に父親に連れられ、初登りをします。

今ではこの祭りに魅せられた人々が遠くからやっています。

それぞれの上り子の松明の火が石段を降りてくる様は「お燈祭りは、男のまつり、山は火の滝、下り竜」と新宮節にも唄われ、大変、美しく迫力があります。



神倉神社ごとびき岩

新宮城跡（丹鶴城）

この城の歴史は古く、平安時代熊野地方を治めていた熊野別当が別荘を建てていた場所に新宮十郎行家（丹鶴姫の弟）が城を築いたといわれています。



新宮城跡

関ヶ原の戦いの後、浅野家が築城に着手します。その後1615年の一国一城令で廃城を命じられますが、海上交通の要で場所的に重要な城として再建、その後、徳川水野家が支配する事となっていきます。紀州備長炭などを江戸に送り、紀州藩は大変に裕福でありました。その財力で建てられた石垣の石積みは素晴らしく今も多くの研究者が訪れています。

新宮支部 飯屋 巨